

子ども虐待と発達障害

～発達障害の「診断」はなぜ増えたのか～

発達障害のある子どもは虐待を受けやすく、逆に虐待を受けた子どもは発達障害に似た特性を示すことがあります。

虐待を受けると脳の機能や形態に変化をもたらし、それが発達障害の子どもと類似しているという研究はその裏付けになるかもしれません。

また親自身に発達障害や被虐待歴がある場合には、周囲の不適切な関わりによって親が孤立を深めて援助希求力が低下してしまい、それが子どもへの虐待のリスクを高めることもあります。

対人援助職に必要とされる対応方法を学びます。



講師：毎原 敏郎

(兵庫県立尼崎総合医療センター小児科長)

京都大学医学部附属病院、兵庫県立塚口病院、公立甲賀病院、日本赤十字社和歌山医療センターでの勤務を経て2015年から現職。周産期医療センター長・小児救命救急センター長を兼務。専門分野は小児神経、子ども虐待防止。日本小児科学会代議員、日本子ども虐待医学会代議員。一般社団法人TICC代表理事。

訳書（分担訳）：「子どもの虐待とネグレクト 診断・治療とそのエビデンス（C. ジェニー編）」、「虐待された子どもへの治療（R.M. リース他編、第2版）」。

日 程：10月18日（水） 19:00～20:30

形 式：Zoom

参加費：2,000円

申 込：Peatixイベントページからお申し込みください
(クレジットカード等での前払い)

<https://tic-1018.peatix.com>



この講座は、TIコーディネーター認定の継続研修として実施するものです。

次回は2024年1月17日（水）19:00～20:30実施予定です。

内容、詳細はTICCウェブサイトをご確認ください。<https://www.jtraumainformed-tic.com/>

【お問合せ先】一般社団法人TICC（こころのケガを癒やすコミュニティ事業）

jtraumainformed@gmail.com

080-8921-4685/06-6439-7399（月・水・木 9:30～16:30）

